

若き技能者たちの 晴れの舞台—— 飽くなき向上心で挑む 技能五輪大会



前回、ディーゼルニュースMi12月号でもお伝えした通り、UDトラックスでは、技能五輪大会を若手技能者の研鑽の場として位置づけ、毎年「自動車板金」と「電子機器組立て」の2種目にエントリーし、好成績を収めてきた。今回は大会を直前に控えた選手とトレーナーを取材し、技能五輪大会への取り組み姿勢や熱き思いをレポートする。

入社から3年間の限られた時間でいかに成長を促すか

UDトラックス上尾工場の一画に設置された、技能五輪プロジェクト室には、ハンマーで金属板をたたき甲高い音がこだましている。ここで黙々と作業を続けているのは、「自動車板金」に出場する技能五輪選手たちだ。そして、もう一つのプロジェクト室では、「電子機器組立て」に出場する選手たちが、コンピュータのモニターの前で、電子回路基板の設計やハンダづけ作業に集中している。

選手たちに与えられたミッションは、UDトラックス代表として技能五輪大会に出場し、結果を出すことである。日々、自らの技能を磨きあげるべく修練を積む選手たちは、どのような思いを抱いているのだろうか。また、選手の教育に当たるトレーナーは、どのように選手の育成に取り組んでいるのだろうか。

「自動車板金」と「電子機器組立て」、まったく異なる分野ですが、トレーニング内容はそれぞれのようなのですか。
大瀧自動車板金トレーナー 技能五輪に出場する選手たちは、入社し、

3年間大会に挑戦します。「自動車板金」の場合、大会に出場するのは2年目、3年目の選手だけです。1年目は、まず基礎を身に付けることに徹し、その後、2年目から大会で通用する技能の習得に励みます。板金作業には体力が必要ですので、ランニングや筋力トレーニングも日課となります。

猪瀬(電子機器組立てトレーナー)「電子機器組立て」のチームでは、1年目は電気・電子やコンピュータプログラミングの基礎の学習に加え、電子機器の製作に必要なハンダづけ技能などを習得します。2年目、3年目の選手は実践的なトレーニングメニューをこなし、大会での上位入賞を目指します。とにかく覚えなくてはならないことが膨大なため、3年間という期限の中で、いかに多くの知識を吸収するかが勝負です。1時間、1分たりともムダにしないよう、日々メリハリを付けてトレーニングをおこなっています。

選手としてのやりがい、また、苦勞する点を教えてください。
佐藤(自動車板金選手) 大会では、ハンマーやタガネなど、ごく基本的な道具だけを使い、たとえば、1枚の金属板を車両のバンパーやフェ

ンダーの形に仕上げます。評価のポイントは、正確な形状、寸法や曲面の精度、仕上がりの美しさなどです。感覚を研ぎ澄ませて、自分の腕一つで自在な形をつくっていくのが、「自動車板金」の面白さです。

最初のころは15分もハンマーを握っていると疲れてしまいました。が、今では5時間打ち続けることができるようになりました。その一方で、0.1mm単位で加工する正確さも要求されますので、力と繊細さの両立がとても難しいです。
鴨志田(電子機器組立て選手)「電子機器組立て」は、出題された要件を満たす電子回路の製作、機械の故障箇所やプログラムの不具合を見つけ出す課題、電気・電子全般の知識を問うパーテストなどがあります。



いので、どれだけ勉強しても、これで終わりというゴールはありません。そのため、帰宅してからも参考書に夢中になり、気づくと夜中になっっていることもあります。私たちも、翌朝はランニングが日課です。早起きがつらいときもあります。

技能五輪への挑戦を通じ、お客さまの期待におこたえするための基盤をつくる

技能五輪に取り組むことで、現場レベルにおいてはどのようなメリットや成果がありますか。また、お客さまにはどのようなメリットをご提供できると考えますか。
猪瀬 選手は苦しいときもあると思いますが、それを乗り越える経験は、技能者として、また一人の職業人として、必ず自分の宝物になるはずです。

選手を卒業すると、各現場に配属されるか、私たちのようなトレーナーになるわけですが、「五輪経験者は、高い技能を持っていて当然」という目で見られます。その存在自体が、多くの社員にとってよい刺激になることを求められているわけですから、責任は重大です。
大瀧 技能五輪で優秀な成績を収



トレーニングをこなす選手たちは真剣そのもの。どこまで技能を高められるか、毎日が自分との戦い。

めることは重要ですが、真の目的は、現場一丸となった向上心を醸成することです。高い技能レベルを目指して、一人ひとりが明確な目標を設定して常に努力すること、それが、お客さまのご期待におこたえするための基盤になっていくと思います。



自動車板金の選手にとって何より大事なハンマー。20種類ものハンマーを使い分けて、さまざまな形をつくりあげる。

技能五輪の先に
見据えるのは
よりよい製品づくり

選手として、あるいはトレーナーとして、喜びを感じるのとはどのようなときですか。また、今後の目標や夢を教えてください。
佐藤 大会の当日、大勢の人が応援に駆けつけてくれ、会社をあげて技能五輪に取り組んでいること、そして、自分がその代表であるこ

